

ウイキペディアによるに「競争入札とは、単に入札とも呼ばれ、賣買・請負契約などにおいて複数の契約希望者に内容や入札金額を書きたる文書提出せしめ、最も有利なる条件示す者を契約締結者と定む」とあり。沖縄サミットに關してスキャンダル露呈しつる後、全ての國際會議やそれに關係する業務、例へば通譯や翻譯等も競争入札にて決めらるることとなれり。これまでは隨意契約といふ形態にて、特定の技能者仕事を請け負ひたり。わが社も過去に外務省、財務省、日本銀行、東京大學、一橋大學より白書や論文の英譯、國際會議運營、會議記録作成等多數の仕事随意契約にて請負ひき。發注元と擔當せる業者間の癒著なくすといふ名目なりと思ふが、國際會議運營や語學驅使する業界狹きが故に、一般人には隨意契約は癒著と見ゆるか。語學や特定の技能に特化せる人たちを使ふは、癒著とは異ならむと覺ゆ。國際化の波押し寄せても、この業種に携はる人たち未だ未だ日本にては少數派なり。競争入札は最安値を提示したる會社に仕事請負はせる故、この業界の仕事の質を落とさしむこと甚大なり。同時通譯や翻譯は一定の價格にて、日本語の難易度を鑑みれば高價にて當然とせられてきたるも、それら全て崩れ去りき。慣れぬ業者落札せば、技能の良し悪し見當附かず、有能なる人材手配すること能はず。更に値段安くなれば有能なる人たちが集まらず。必然として質落つ。イベントもしかり。簡單なる例は、沖縄縣シーサーをある政府施設に贈れり。その除幕式落札せしは、これまで國際會議やイベントを擔當せる會社ならず、葬儀屋なりき。これを聞き、業界は啞然とす。

最低價格にて落札せる業者安く請け負はば、翻譯の質確保すること能はず、自動翻譯機にて翻譯したるとき劣悪なる英語や日本語になれり。吾も劣悪なる英譯文編集願ひたきとの依頼もらふが、最初より翻譯し直したき程のもの殆どなり。これは餘談なるも、ある有名なレストラン日本橋三越の中に出店あり。そこにて我社の社員懇親會開催するに、特別メニューあり。我等そのメニュー手にし椅子より落ちむばかりに驚きたり。メニュー眞ん中邊に「How much」と印字してあり。料理説明するところに何故そのやうな印字あるや。良く讀みてみれば、オードブルはイクラのサラダとあり。イクラが「How much」になりき。讀み進むうちに、「あぶらののりたる」サーモンは「ride on the fat」になりをり。支配人呼び、小聲にて「お宅のごとく有名なるレストランのメニューとは信じ難し。そもそも誰が英譯せしや」と聞くと翻譯機といふ。かくの如き恥づべき事ありて、東京オリンピック開催危ふからずや。昨年、若くしてこの世を去りし日本一の通譯とうたはれし横田謙氏も、生前入札に關しては「残念なるも、pendulum(振り子)はまたもとに戻らざるを得ず」と申されけるを思ひ出しぬ